



- 1 創立100周年寄稿
- 2 海外友好交流協定締結
- 3 創立100周年記念ラッピングバスが運行
- 3 創立100周年記念事業募金寄付者芳名
- 3 募金に関するお願い
- 4 100周年編纂余語



創立100周年を祝す

創立100周年記念事業委員会副委員長
明治大学校友会会長・総明会名誉会長
向 殿 政 男 (1960年度卒業)

私たちの母校が、創立100周年を迎えることになりました。誠に喜ばしく、誇りに思います。誇れる母校をもつ私たちは、本当に幸せであります。

100年という長い歴史と伝統は、これまで幾多の困難を乗り越え、今日の栄えある母校を築き上げてこられた諸先輩方の努力のたまもであります。親身になって生徒の教育に取り組まれてこられた先生方、その時代を真剣に生きてこられた卒業生の方々、その他多くの関係者の皆さまの努力が継続を生み、累積されてこの100年を作り上げて来ました。私たち校友は、この歴史ある母校を益々発展させ、次へ継続して行くことを支援する責任があります。これは、今の時代を誠心誠意、懸命に生きる努力をしながら、母校に常に温かい眼差しを向け続けて行くことによってしか達成し得ません。

建学の精神を堅持しつつ、時代の流れに柔軟に対応しながら、凛として存続することが伝統の本当の姿であると思います。母校は、戦前の旧制中学の時代、戦後の明治大学の付属となった時代、そして、調布という新天地での現在という三つの大きな変革を経験しています。エリート校だった旧制時代、下町の商人の息子が多かった戦後の時代、そして男女共学となった今、時代と環境は大きく変わっています。しかし、この100年間、伝統として変わらぬもの、受け継がれているものは、建学の精神と共に、母校の校友に対する温かさや校友の母校に対する懐かしさであります。その基本は、私は、責任に裏打ちされた“心の自由性と生きざまの多様性”にあると信じています。

母校が、これまで通り、有為な人材を校友として世に送り続け、わが国はもとより、世界の発展に貢献し続けることを願ってやみません。



歴史の50年、幻の50年

東京ガス株式会社顧問
前 田 忠 昭 (1963年度卒業)

創立100周年と聞いて、謡曲「敦盛」を思い浮かべる。織田信長が好んだ「人間50年、下天のうちに比ぶれば夢幻のごとくなり・・・」というあれである。

明治中学が大学敷地内に木造校舎を建て、初代校長に鶴沢総明を迎えてスタートしたのが1912年。我々の世代は半世紀近くたった昭和33年に中学に入学。最初の教室は、猿楽町の男坂の階段を降りてすぐ左にあり、床や窓はガタピシ、いかにも古かった。やがて鉄筋の新校舎を建設することとなり、第1学期だけしか使わなかったその校舎は夏の間に取り壊された。果たして何人の先輩達があの校舎で学んだのだろうか。

1912年は明治45年から大正元年へと変わった年だ。日露戦争の余韻まだ覚めやらず、第1次世界大戦に突き進む時期。現在の調布は言うに及ばず、新宿ですら豊多摩郡と呼ばれ、ただ田園と武蔵野の森が広がる、何もない田舎だったはず。

当時の我々にとってこの50年は教科書でしか知らない果て

しなく遠い歴史であった。高Iの時に創立50周年を祝い、その歴史の長さや伝統に感動したものだ。

だが、自分自身がその後の50年を生き過ぎてみると、あっといふ間の出来事のように思える。まさに夢幻のごとくである。50年は永い歴史でもあり、一瞬の内に過ぎ去る時でもある。自分が惰眠をむさぼる間、この50年で明治高校は多くの卒業生を輩出、校舎は調布に移転、男女共学となり、変わりようは「浦島太郎」を見るようだ。

創立100周年記念事業委員会に参加して、学校がどうありたいか議論。明中高の卒業生が海外に飛躍し、世界で活躍する姿を想像する。夢幻で終わらせることなく、新たな伝統を作れるか。在校生の中からも、新たな努力が始まっているのは嬉しい。

信長の時代の平均寿命は50年。現代では老化抑制遺伝子が発見され、活性化すれば120歳まで多くの人が生きられると言う。そうなれば在校生は生きて200周年を祝うことができるのだ。みんな、頑張ってもらいたい！

初！ 海外友好交流協定締結



金子校長(左)と建平中学の楊校長

このたび本校では、創立100周年記念事業のキーコンセプトでもある、グローバル人材の育成のための第一歩として、中国上海市の建平中学（日本の高等学校に該当）と創立以来初の海外友好交流協定を締結しました。この協定は、教育交流、学術交流および文化・スポーツ交流を通じて、両校の発展を図ることを目的とするものです。

記念すべき第1回目の交流として、2011年9月25日から約1週間、本校生徒11名（男子4名、女子7名）を建平中学に派遣し、語学研修を中心とした国際交流研修を実施しました。

建平中学

1944年創立。生徒数2200名、46クラスを有する国立の高等学校。上海市の重点中学に認定される名門校で、大学進学率は100%、内90%が北京大学や復旦大学を含む国立の難関大へ進学する。上海市では初となる留学生募集と外国教員・研究者を採用する権限を有し、ドイツ、フランス、スイス、アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア、韓国、シンガポールの11校と友好協定を結んでいる。日本との協定は、本校が初となる。



建平中学正門前にて

第1回 建平中学 国際交流研修について

総務主任 吉田 重幸

今年度から明治高等学校が中国の上海市にある建平中学（日本の高校に該当する）との国際交流を開始するにあたり、

校長他代表団が9月25日から中国を訪れ、国際交流協定を締結した。この国際交流は創立100周年事業の一環として実施するもので、本協定を以って、本校創立以来、初の海外協定校が誕生したこととなる。一方で、建平中学にとっては本校が日本における初めての協定校となった。建平中学は、中国全土から生徒が集まる名門校である。今後は、両校間の教育、学術、及び文化などの交流の促進を図り、毎年交互に相手校を訪問する国際交流研修を行うこととなる。今回は多数の希望者から選出された本校生徒11名が9月25日～10月1日の日程で建平中学を訪れた。

本校では創立100周年のキーコンセプトとして「世界へ—世界に飛び出し『己』を知ろう—」を掲げている。このキーコンセプトは、今後の本校の新たな教育方針の一つでもあり、グローバル社会をリードする人材の育成を表している。現在の世界情勢・経済情勢に鑑みてグローバル社会を考える場合、欧米諸国だけではなく、アジア諸国、とりわけ中国が重要な存在となっている。そして、この度、本校は中国経済の中心となっている上海市の建平中学と協定を締結し、両校生徒の国際交流を推進していくこととなった。

こうしたことから、本研修は、この国際交流を通して本校生徒が若い時期から世界に目を向け、交流を通して刺激を受けることにより、グローバル化を推進している明治大学に進学した後も国際化の中核となっていく人材を育てたいという目的に沿ったものである。

派遣生徒の意識は高く、現地での活動に意欲的に取り組み、所期の目的を十分に達成することができた。

この場を借りて、昨年4月の現地視察に始まり交流実現に至るまで、お世話になった皆様に厚く御礼申し上げます。



上海博物館にて

中国の文化を感じて

高校Ⅲ年D組3番 遠藤 加奈子

私たちは語学研修の合間に上海市内を見学した。まず行ったのは豫園という中国の三大名園とされる庭園。中国が明という王朝の時代に建築された庭園で、中

はどこから見ても全て違う風景が見えるようになっていて、日本の庭園とはまた違った厳かな空間が広がっていた。夜の豫園はライトアップされて、昼間とはまた違って建物を縁取る電飾に庭園が浮き出ているようで、綺麗だった。

上海博物館では、上海の歴史的な民族衣装や昔使われていた貨幣など、中国の伝統的なものが多く展示されていた。日本でも見たことのあるようなものもあって、とても興味深かった。また、上海郊外では朱家角という所に行った。ここは、昔は水郷地帯が広がっていた上海の原型を留めている場所で、上海で感じた都会の騒がしさとは違って、のんびりとした静かな雰囲気の特徴的な場所だった。日本と違って、人目を気にせず自由に生活しているように見えて、日本人がいかに他人の目を気にして生きているかが少しわかった気がした。

私たちは研修で学んだばかりの中国語を使い、中国文化を少しだけ垣間見たように思う。この研修をきっかけに、もっともっと中国の文化に触れてみたいと思った。とても貴重な研修の機会を与えてくださった校長先生方に深く感謝いたします。



国際部の生徒と一緒に

上海語学研修の感想

高校Ⅲ年E組14番 飯村 裕一郎

6泊7日の上海は充実したものであった。建平中学は2000人以上の生徒が在籍する学校であるから、設備の充実さに驚いた。1階と2階がある学食や、多くの生徒が利用するコンビニもあった。休み時間になると校庭や体育館では生徒が伸び伸びと体を動かしていた。国際部の授業に参加した。

英語で授業が展開されていくが、学んでいるのが中国語というのがとても新鮮な感じがした。国際部の日本人の方々の助けを得て、なんとか授業に追いついていた。一般の授業の傍聴も行ったが、生徒一人一人が真面目に授業に取り組んでいた。教科書はとも1学期間で終わりにしない量なのだが、それを2ヶ月で終わらせるという。さらに英語の本文は全部暗記すると聞いたときは、驚きを隠せなかった。彼らは日本について興味を持っていて、特にアニメやマンガが好きな生徒が多く、中には独学で日本語を勉強している生徒もいた。日本文化の浸透さと、彼らの海外への好奇心の強さに感動した。この1週間過ごした研修の経験は確実に今後の人生に活かせるものであった。



建平祭のステージにて

上海語学研修と日本文化

高校Ⅲ年G組3番 佐久間 美咲

私はこの9月に中国へ語学研修に行きました。研修先の高校で、最終日の前日に建平祭（日本でいう文化祭）が行われており、研修先の高校から日本の文化を紹介してほしいと言われた。私達は急遽日本の伝統の踊りであるソーラン節を建平祭で披露すること

になり、3日間という短い時間でソーラン節を練習しました。いざ当日！失敗する不安よりもソーラン節を踊って楽しもうと考えて、大舞台に立ちました。中国で日本の踊りを受け入れてもらえたようで、披露後、現地のお友達と共にソーラン節を踊りました。また、私達は日本のおにぎりを作り、提供しました。具は日本風とまではいきませんが、とてもおいしく作れたと思います。中国の文化祭は日本の文化祭と違うところもありましたが、皆が協力して1つのことを作り上げる素晴らしさを実感することができました。ソーラン節などを通して現地のお友達と交流し、深い友情を築き上げることができたのが何よりの宝物です。

創立100周年記念ラッピングバスが運行

本校では創立100周年を記念し、通学用スクールバスのラッピング化を推進してきました。このたび、京王電鉄バス株式会社の御協力により2台のラッピングバスが完成し、去る9月1日、本校バスロータリーにおいてラッピングバスのお披露目会を実施いたしました。

お披露目会には、小尾純子PTA副会長、尾島育四郎総明会会長、加藤幸子白駿会副会長、創立100周年記念のロゴマーク最優秀作品受賞者でありラッピングバスのデザインを担当された島村武史氏（1983年度卒）、京王バス関係者の皆様に来賓として参列いただき、テープカット式を行いました。

新たなバスには、「紫紺を胸に 羽ばたけ未来へ」と「紫紺を胸に 羽ばたけ世界へ」という創立100周年記念の2つのロゴマーク・キャッチコピーがそれぞれプリントされています。

今後、ラッピングバスが学校周辺の市街を走ることにより、本校の創立100周年が、調布、三鷹をはじめとする地域の皆様に広く認知されるようになります。

(ラッピングバスについての御協力・御質問は、高等学校・中学校事務室まで。)



創立100周年記念事業募金寄付者芳名

2011.6.1～10.31まで到着分累計 76件 2479万9000円

2000万円

明治高校同窓会
総明会殿

100万円

山浦 晟暉殿

50万円

金井 照治殿

20万円

井家上 哲史殿

栗原 圭介殿

小林 正三郎殿

12万円

北村 純殿

10万6000円

明治高等学校総明会
チャリティ基金賛同
者一同殿

10万円

金子 友治殿

栗田 健殿

依元 正美殿

(株)レストラン・

ピガール殿

渡辺 寿太郎殿

9万円

小岩 孝一殿

6万円

北隅 史倫殿

中村 一雅殿

横山 和男殿

5万円

石川 幸一殿

石野 忠志殿

佐々木 浩二殿

比留間 竹郎殿

横山 知則殿

匿名1名

3万円

秋山 隆明殿

浦井 紀美殿

大野 正隆殿

岡田 早苗殿

小川 聡殿

勝野 宏殿

岸本 宏志殿

桑江 雄佑殿

坂倉 修一殿

櫻井 正明殿

佐藤 野都香殿

高倉 尚殿

高橋 郁三殿

高見 二郎殿

田中 忠彦殿

長瀬 隼斗殿

中村 順一殿

中村 光春殿

野口 嘉弘殿

埜 直樹殿

平子 良雄殿

星野 均殿

細野 浩義殿

三浦 直子殿

矢田部 雄太殿

山内 翔貴殿

山内 智世李殿

山田 隆久殿

吉田 直樹殿

匿名19名

2万円

中村 邦彦殿

1万円

斎藤 明日香殿

匿名2名

3千円

匿名1名

金額表示希望なし

山根 誠司殿

街路灯フラッグ



現在、本校のバスロータリーには、本校創立100周年記念と明治大学創立130周年記念のロゴマーク・キャッチコピーがプリントされたフラッグ(旗)が掲げられています。登下校でバスロータリーを使用する生徒だけでなく、学校行事で来校される方々にも、今年明治大学が創立130周年を迎えたこと、そして、本校が2012年に創立100周年を迎えることを、印象付けています。

明治大学附属明治中学校・高等学校 創立100周年記念事業募金への協力をお願い

募集要項

(1) 受付期間

2010年11月1日～2013年3月31日

(2) 振込先

振込先は三井住友銀行です。専用の振込用紙でお振込ください。三井住友銀行の本・支店の窓口でお振込いただくと、手数料は不要です(振込は窓口のみ。ATM、インターネットバンキングには対応していません)。

(3) 募集金額

個人の方には1口3万円以上、法人・団体の方には1口10万円以上の御寄付をお願い申し上げます。なお、1口未満でのお申し出にも、喜んで承らせていただきます。

(4) 銘板刻印

個人1口3万円以上、法人・団体1口10万円以上を御寄付頂いた方は、明治中学校・高等学校創立100周年記念募金寄付者銘板に御芳名を刻印(創立100周年記念事業終了後に校舎内に設置予定)いたします。

なお、銘板には御希望により、保護者の御芳名から御子息・御息女の御芳名に代えて刻印することができます。

(5) 免税措置

2千円を超える御寄付は、所得税法第78条第2項第2号の規定に基づき、特定公益増進法人に対する寄付金として、当該年の所得の控除対象となります。御寄付後に本校からお送りする「領収書」と文部科学省の「特定公益増進法人証明書」(写)を添えて所轄税務署に確定申告をしていただくと、所得税の還付が受けられます。

(6) その他

御協力頂いた方の寄付金額・御芳名は、明治大学広報に掲載させていただきます。なお、金額又は御芳名の掲載を辞退される場合は、寄付金お申込の際に振込用紙にてその旨お知らせください。

(7) お問い合わせ先

高等学校・中学校事務室 募金係

【TEL: 042-444-9102 FAX: 042-498-7800】

メール: ko_chu@mics.meiji.ac.jp

事務取扱時間: 9:00～17:00

(土曜、日曜、祝祭日及び年末年始等を除く。)

100周年編纂余語

<初代教頭 村田 勤>

本校の初代校長は鵜沢総明である。鵜沢は、弁護士、衆議院議員、明治大学理事と八面六臂の活躍をしているなかで校長に就任した。本校にはどんなに忙しくても月に数回は出校した。その間、学校運営にあたっていたのは、教頭の村田勤である。村田は、鵜沢から依頼を受けた麻布中学校の校長江原素六氏の推薦で本校の教頭に就任したという。村田は同志社大学を卒業後、渡米してエール大学で文学修士を取得し、明治中学校に奉職する前に日本女子大学、聖学院、東京府立第四中学校、拓殖大学で修身、西洋史、英語を教えていた。

本校には村田が在職中に記した『日記』（1915年10月1日～翌年12月31日）のコピーが残されていたので昨年筆写・解説を進め、この秋ようやく終了した。この作業の過程で、村田が学校業務以外にも幅広い交遊を示す記述を散見できたので、その一端を紹介しよう。

1916年3月30日、村田勤は夫人とともに北多摩郡千歳村粕谷（世田谷区粕谷）にある徳富蘆花（健次郎）宅を訪問した。蘆花は『不如帰』、『思出の記』などを著した小説家であり、村田と蘆花は、ともに熊本英語学校と同志社大学の同窓生であり、同志社大学では村田の2年後輩が蘆花であった、という。3年ぶりの訪問のためか、種々話が交換されたようである。その中で蘆花は、「一層真がほになり、やや昂奮した様子にて恩師、兄上はじめ、その親戚の人々との関係」を語りはじめた。「予の一生は兄に対する片思ひの生涯……兄がもう少し兄らしく、予が少し□わかれて居ればかゝる誤解を生せざりしものを……兄は本来正直ものなり」と。蘆花の兄は思想家・

ジャーナリストの徳富蘇峰・猪一郎である。このとき、蘆花と蘇峰の関係は絶縁状態であった。蘇峰がしだいに国家主義的傾向を強めていったので、次第に不仲となった、といわれている。蘆花は、「告別の辞」（1903年）を発表して以来一度も蘇峰に会っていない。日記にはこれだけしか記していないが、実際は蘇峰についてこれ以上の話があったのだろう。

訪問の翌日、村田は蘇峰宅を訪問し、蘆花の近況を蘇峰に語ったところ、蘇峰は「非常に喜ばれ、又兄弟の胸中の熱烈を話して落涙せられ、村田は思わず蘇峰宅に長座した、と『日記』に記している。さらに4月1日、村田は蘇峰に「徳富猪一郎（蘇峰）に弟の事につき書簡を認め」たのであった。村田は徳富兄弟の不仲を承知していたうえで、このような行動に出たのであろう。ひょっとしたら、兄弟の不仲を修復しようとしたのかもしれない。

蘆花は大正初期に日記をつけていた。この日記に村田夫妻の訪問についても書いているが、村田の記述とやや異なるところがある。興味のあるところであるが、紙幅の関係で省略せざるをえないことをお許しいただきたい。

（以下、手書きの日記本文の複製）

創立100周年記念品、配付しました

創立100周年を半年後に迎えるにあたり、このたび、校内の機運をさらに高めようと、本校生徒を対象とした創立100周年記念品を作成し、配付しました。記念品は、創立100周年記念のキャッチコピー「紫紺を胸に 羽ばたけ未来へ」に対応するロゴマークがプリントされたステンレスサーモボトルです。黒地にゴールドのロゴマークが落ち着いた印象で、生徒たちにも好評です。来年度の新生徒には、入学後に配付を予定しています。



● 創立100周年記念式典・祝賀会について ●

2012年11月17日（土）に、御茶ノ水の明治大学アカデミーコモンにて、創立100周年記念式典ならびに祝賀会を行う予定です。詳細が決まり次第、今後の事業NEWSでお知らせいたします。

明校ひとくちメモ

第1期募集は15倍？

資料によると、鵜沢総明初代校長は明治中学校の教育に大変情熱を燃やされていたらしく、政治や裁判に忙しい中でも、生徒の処分問題などには時間を同じように割かれていたそうです。また、のちに東大教授や明大教授になられた中村孝也氏などを招かれたといえます。

第1期明治中学校の志願者は、定員150人のところ2千数百人の応募がありました。本校はお茶の水のニコライ堂近くにあった開成中学校をライバルとしていました。



● 次号のお知らせ ●

第3号は2012年3月上旬に発行予定です。